

### 寄託文書紹介3

## 小崎耕作家文書

茂木町小貫二、八九〇番地の小崎家には、八本の小崎氏に関する系図が残されています。これらの系図によると、小崎氏は、清和源氏新田氏の流れをくみ、戦国時代には武蔵の成田氏や常陸の佐竹氏につかえ、佐竹氏の秋田転封後、尚則（源太左衛門）の代に小貫村へ土着し、帰農し、盈友（喜兵衛）の代以降に旗本の福原淡路（守）の所領の村役人化していったらしいことがわかります。

小崎氏が盈友の代以降、小貫村の村役人化したことは、寛永十八年（一六四一）十一月十五日付けで小崎喜兵衛・同喜右衛門が小貫村の庄司役（名主の前身か）に任命されたり、無年号の午十一月朔日付けで「古来の通り名主役」を仰せ付けられた文書が伝えられています。ことからわかります。

さて、小崎家の文書は、現在当館に寄託されています。総点数は一、三三〇点で、八割が江戸時代の文書で二割が明治時代の文書です。

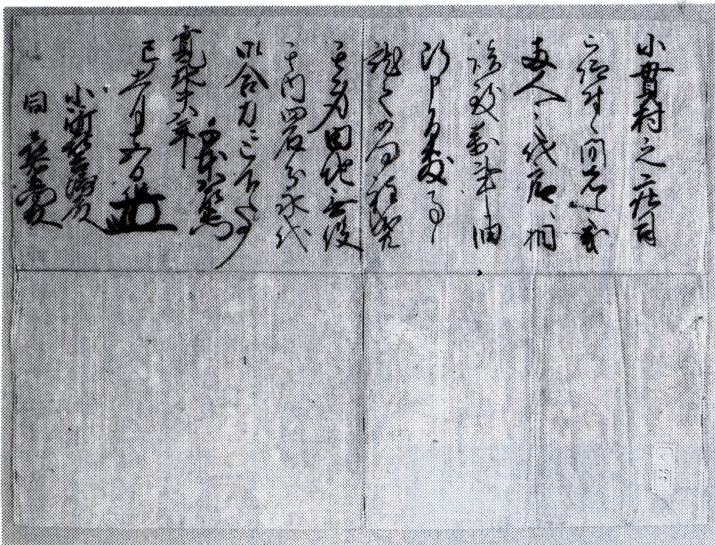
江戸時代の文書は、小貫村の一部が佐久山（現大田原市佐久山）に陣屋を置いた旗本の福原家の所領で、小崎家が小貫村の名主を勤めていた関係上、小貫村の名主としての働きを示す文書が多く見られます。たとえば、旗本福原家からの年貢割付状・年貢書上げ書・夏成（秋成）年貢の割付状などといった年貢の徴収令達や年貢の完納を証明する年貢皆済目録及び検地帳・名寄帳などがたくさん見られます。

また、明治時代になると、小貫村は、明治二年（一八六九）に日光県、同四年に宇都宮県、同六年に栃木県へと所管が変わっていきます。こうした変遷のなかで、小崎家は、江戸時代以来の名主として、小貫村の年貢を日光県庁や宇都宮県庁に納入した皆済目録を保存しています。この後、小崎家は小貫村の戸長に任命されていきます。この点は、同家に戸長役場に

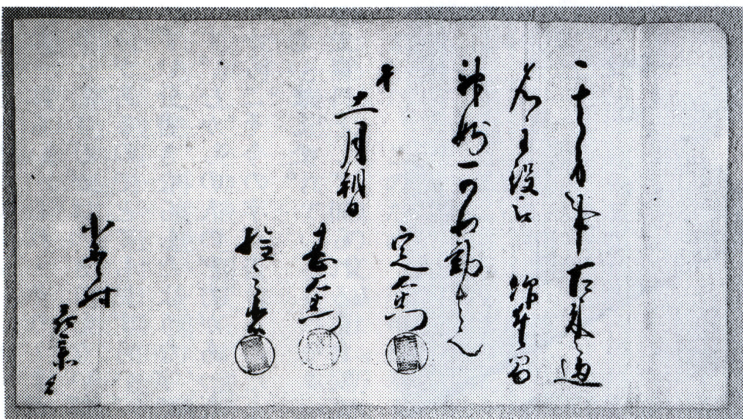
関する文書が数点伝えられていることからわかります。

その他、明治時代の文書としては、明治六年（一八七三）のもものと思われる宇都宮県からの学校創立献金についての褒状、翌年のものと思われる小貫村の一貫舎に関する開学願書、小貫村の地租改正にともなう耕地絵図などもありま

#### ▲庄司役に任命された文書



#### ▲名主に任命された文書



す。  
小崎耕作家文書は、県立文書館で利用できます。  
(荒川善夫)